学校番号	３０３５

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「新詳世界史Ｂ」　（帝国書院）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　二十訂版　（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

２　学習の到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸史料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか。	世界の歴史のそれぞれの事象を大きな流れの中にとらえ、さまざまな角度から考察できるか。また、さまざまな見方について検討し、自分の意見を持つように到るか。	世界の歴史についての資料を収集し、必要な情報を選択して活用できるか。また、それらをもとに考察した結果を適切に表現出来るか。	世界の歴史をわが国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けているか。
評価方法	定期考査 ワークシート レポート 授業に対する姿勢	定期考査 ワークシート レポート 授業に対する姿勢	定期考査 ワークシート レポート 授業に対する姿勢	定期考査 ワークシート レポート 授業に対する姿勢

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	諸地域世界の形成と交流	【目標】人類の出現から文明の成立に至るまでの先史時代を概観し，獲得経済から国家の形成に至る過程を学び，歴史時代へのつながりを認識させる。 【内容】人類の出現と進化，石器時代の進展および生産経済の進展を学び，分業の成立による社会構造の変化と国家および文明の成立の過程を確認し，歴史時代へのつながりを把握させる。	○	○	○	○	【a】人類の出現と進化の過程，並びに生産経済の開始に伴う大きな変化に関心をもち，追究している。 【b】生産経済の成立と，国家組織の成立につながる過程を考察し，表現している。 【c】人類の進化や移動を，グラフや地図から読み取ることができる。 【d】人類の出現と進化，農耕・牧畜の開始とそれに伴う人類の生活，並びに歴史上の変化について理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	オリエント世界と地中海世界の形成	【目標】オリエント世界と地中海世界の特質を気候・地形などと関連させてとらえるとともに，それが統合されて，西アジアとヨーロッパの原型がつくられていく様相を，歴史的・地域的にとらえさせる。 【内容】オリエント世界では，乾燥地域の大河流域に農業を基盤とする文明が生まれ，最初の世界帝国が形成されたことを把握させる。また，交易などを通じた地中海世界の成立，および後世に大きな影響を与えたギリシア・ローマ文化とキリスト教の成立・発展を把握させる。	○	○	○	○	【a】オリエント・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心をもち，追究している。 【b】オリエント世界と地中海世界の風土・社会・政治・文化・宗教について比較し，その共通点と相違点を示すことができる。 【c】地図などの各種資料を活用して，各地域における特色と相違点を把握できる。 【d】オリエント・地中海両文明の特色を理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

1学期	南アジア世界の形成	【目標】海洋と山脈に囲まれ，モンスーン気候の影響を大きく受けて，独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を把握させ，同時に他地域との交流もつかませる。 【内容】南アジア世界の多様性を民族・身分制・社会構造・宗教・南北の地域差の視点から把握させる。また，ゼロの概念にみられるインド文化の先進性に気づかせる。	○	○	○	○	【a】南アジア世界が多様性に富むことに興味をもち，追究している。 【b】南アジア世界の多様性を，民族・風土・宗教などの視点をふまえつつ総合的に考察している。 【c】各種資料から諸王朝の変遷や他地域との交流，社会構造を読み取ることができる。 【d】南アジア世界の風土・政治・社会・文化について総合的に理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	東南アジア世界の形成	【目標】気候や地形との関係上人口密度が低く，全域を支配する国家・宗教・民族こそ出現しないが，水上交通網の発達により商業と人の移動が活発で，外に開かれた流動性の高い独特な社会が形成されてきたことを把握させる。 【内容】港市国家の成立の背景にある，気候・地理的特徴に着目させる。インドや中国の文化的影響を受けながらも，それらを融合させた独自の文化が生み出されたことや，諸国の興亡を把握させる。	○	○	○	○	【a】東南アジアの複雑多様な地域性に関心をもち，追究している。 【b】インドや中国の文化的影響を受けて成立した東南アジア世界の独自性について，具体例をあげて考察できている。 【c】インド洋・東アジア海域とつながる港市国家成立の背景を，地図などの各種資料から把握できる。 【d】東南アジア世界の風土と位置関係から，南アジア世界や東アジア世界とつながり，その影響を受けつつ独自の世界を築いたことを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

1学期	東アジア世界のあけぼの	【目標】北の乾燥・畑作と南の湿潤・稲作という二重の農耕世界が広がるが，それを漢字文化が結びつけ，統一王朝が成立したことを把握させる。同時に周辺の国家形成にも留意する。 【内容】古代文明の発生から，春秋・戦国時代の変動期を経て，さまざまな思想・文化が生まれたことをつかませる。また統一王朝と周辺諸国が成立し，それらが政治的・文化的に結びついていたことを把握させる。	○	○	○	○	【a】東アジア世界における，多様な古代文明の発生と，その中での日本の位置づけに関心がもてる。 【b】古代文明の成立から変動期における，思想・文化について歴史的背景から考察し，表現できる。 【c】南北の農耕地域と周辺地域との結びつきを，本文やコラムから理解できる。 【d】中国における統一王朝成立に至るまでの政治・経済・文化を総合的に理解するとともに，日本をはじめとする周辺とのつながりを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	中央ユーラシア世界の形成と展開	【目標】遊牧民とオアシス民が共存する中央ユーラシア世界が諸地域をつないできたこと，その中心的役割を担った騎馬遊牧民への理解を深めさせる。 【内容】スキタイ・匈奴など騎馬遊牧民の興亡を軸に，遊牧国家の成立からトルコ化・イスラーム化までの動きを把握させる。	○	○	○	○	【a】遊牧民（移動生活）とオアシス民（定住生活）の生活の違いや，両者の共生関係について関心をもち，追究している。 【b】騎馬遊牧民がなぜ交易で活躍できたのか，オアシス民との関係を含めて，その理由を具体的に考察し，表現できる。 【c】地図を用いて，遊牧民の移動や東西交易に果たした役割を把握できる。 【d】ユーラシア大陸各地の古代帝国と中央ユーラシアの騎馬遊牧民との交流と衝突を把握している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

1学期	東アジア世界の変動と再編	【目標】遊牧民の活動の活発化と中国の分裂時代が重なり，大きく変容した東アジア世界の状況を総合的にとらえさせるとともに，周辺地域の自立を把握させる。 【内容】魏晋南北朝から隋唐および宋への変化をユーラシアの変動という視点からとらえさせる。その際地図を活用し，ユーラシア東方について具体的なイメージをもたせる。	○	○	○	○	【a】遊牧民の活動と中華王朝の変遷との関連に関心をもち，追究している。 【b】遊牧民の活動と中華王朝の変遷が深く関連していることを理解し，考察できている。 【c】地図などの各種資料を活用し，東アジア諸地域の動向を理解できる。 【d】魏晋南北朝から宋までの中華王朝と遊牧民の活動を関連づけて理解している。中華王朝と周辺諸国の関係を理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	イスラーム世界の形成と拡大	【目標】交易を重視し都市を背景に生まれたイスラームが，アジア・アフリカの各地に広がり新しい文明を築く様相を把握させる。 【内容】イスラームの誕生・拡大をアラブ人による征服の段階と，多くの民族に受容されたイスラーム帝国の時代とに区分して理解する。またイスラーム文明を各地域の文化を吸収した高度な文明として総合的にとらえさせる。	○	○	○	○	【a】狭義の宗教には収まらないイスラームの“社会性”に関心をもてる。 【b】イスラームが地域・民族をこえて拡大できた理由とその影響について考察し，表現できる。 【c】資料・地図などを活用して，イスラームの特色・広がりを考察できる。 【d】イスラーム成立の背景と，地域・民族のわくをこえて拡大する理由について，イスラームの普遍性という観点から理解できている。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

1学期	ヨーロッパ世界の形成	【目標】ヨーロッパ世界が，ローマ=カトリック圏とギリシア正教圏に分かれながらも，ローマ帝国の伝統とキリスト教によって独自の世界を形成していったことを把握させる。 【内容】ヨーロッパの風土，ゲルマン人，ローマ=カトリック教会，封建社会の形成，農村や商業の成長について，地域差をふまえて具体的事例にそくして確認する。またビザンツ帝国がスラヴ人に影響を与え，ギリシア正教圏を形成していったことを把握させる。	○	○	○	○	【a】ゲルマン人とスラヴ人の移動，イスラームの地中海進出，ビザンツ帝国の動向がヨーロッパ世界の形成につながったことに関心をもてる。 【b】ヨーロッパにおける地域差を比較し，その共通点と相違点を考察できる。 【c】地図などの各種資料を活用し，ヨーロッパ世界の形成と変容のようすを把握できる。 【d】ヨーロッパ社会の形成を封建社会の成立と変容，教皇権と皇帝権や王権との対決などの観点から総合的にとらえることができている。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	ユーラシア大帝国の出現	【目標】モンゴル帝国が従来から内陸交易で結ばれていたユーラシア大陸の農耕・牧畜両世界を統合したものであり，世界の一体化を進めていくうえで一大画期となったことを把握させる。 【内容】モンゴル世界帝国の成立過程を学ぶとともに，国家システムがウルスの集合体として成り立ったものであり，多元的・開放的な性格をもつものであることを把握させる。さらにモンゴル時代のユーラシア大交流圏が 14 世紀に危機を迎えたことをつかませる。	○	○	○	○	【a】ユーラシア大陸の大部分を支配したモンゴル帝国の成長・発展の過程について関心をもち，追究している。 【b】モンゴル帝国と交易の活性化の関係について，またモンゴルが南進に手間どった理由について考察し，表現できる。 【c】地図を用いて，モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 【d】モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで，ユーラシア規模で人の交流やものの流通が起こったことを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

2学期	アジア諸地域の栄華と成熟	【目標】モンゴル帝国の後継国家としての明・清，またオスマン帝国などのイスラーム諸王朝が，強大かつ柔軟な統治体制をつくりあげ，独自の文明を発展させたことを理解させる。 【内容】明・清の成立過程と，日本・朝鮮・琉球など周辺国家との関係を理解させる。また東南アジアへの華僑・ヨーロッパ人の進出，およびイスラーム各王朝の動きとインド洋交易ネットワークを学ぶ。	○	○	○	○	【a】東アジアにおける明・清を中核とした国際関係と，イスラーム諸王朝が各地で独自の文明を成熟させたことに関心をもち，追究している。 【b】どちらも多民族国家であり，世界帝国であったオスマン帝国と清の外交や内政のあり方を比較考察し，表現できる。 【c】地図などの各種資料を活用して，各地における特色と相違点を指摘できる。 【d】明・清を中核とした国際関係と，ヨーロッパ人のアジア進出，各地で独自の文明を築いたイスラーム諸王朝について理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	大規模な分業体制の成立	【目標】「大航海」により，西欧を中核とする近代世界システムが形成されたこと，および西欧内部でもルネサンスと宗教改革が起こり，主権国家体制の形成につながっていったことを理解させる。 【内容】「大航海」・ルネサンス・宗教改革から，ポルトガル・スペインの盛衰，およびオランダの覇権に至る過程とともに，主権国家・重商主義などの概念を学ぶ。またスペインの進出によって滅びた古代アメリカ文明についても学ぶ。	○	○	○	○	【a】「大航海」・ルネサンス・宗教改革がヨーロッパ世界に変革をもたらし，新たな時代が展開されていったことに関心をもち，追究している。 【b】「大航海」により始まった西欧中心の世界の一体化が，現代の南北問題の起点でもあったという点を考察し，表現できる。 【c】主権国家・重商主義などの言葉を概念図などを用いて表現できる。 【d】近代世界システムの概念を理解するとともに，ヨーロッパ内部では，主権国家体制が形成されていったことを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

2学期	西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大	【目標】「17 世紀の危機」に対処すべく，ヨーロッパ諸国では変革が行われたこと，主権国家体制にそくした近代的な国際関係ができてきたこと，またイギリスとフランスが世界各地で覇権を争ったことを理解させる。 【内容】イギリス革命および各宗教戦争から，ウェストファリア条約に至る過程を通じて各国の動向と国際関係を学ぶ。あわせてイギリスでは世界最初の産業革命が起こる条件が整ったことを学ぶ。	○	○	○	○	【a】ヨーロッパ各国それぞれの変革と，主権国家体制について関心をもち，追究している。 【b】各国の変革と近代的な国際関係の成立を理解する。また，英仏の覇権争いがなぜ世界各地に及ぶものであったのかを考察し，表現できる。 【c】地図や図表を利用して，ヨーロッパの国境の変化や，英仏の世界規模での覇権争いなどを指摘できる。 【d】ヨーロッパ各国が状況に応じた変革を行っていく中で，近代的な国際関係が形成されていったことを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生	【目標】イギリスで始まった農業社会から工業社会への移行（工業化，産業革命）について理解させる。またアメリカ独立・フランス革命に始まり，ラテンアメリカにも波及した国民国家の形成の動き（環大西洋革命）について理解させる。 【内容】産業革命，およびアメリカ独立・フランス革命・ラテンアメリカ独立などの環大西洋革命が相互に関連しており，ナショナリズムの意識を広げて国民国家を形成していったことを学ぶ。	○	○	○	○	【a】産業革命・市民革命の前後で，生活や社会のあり方がどのように変化したかを，さまざまな視点から追究している。 【b】産業革命で変化した社会，およびアメリカ独立・フランス革命によって形成された「国民国家」は，従来とはどのような点で異なるのか説明できる。 【c】産業革命の展開や国民意識の広がりを，地図や図表などの各種資料を活用して指摘できる。 【d】産業革命による社会の変化のようすや，環大西洋革命によって国民意識が形成されていくことを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

2学期	イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	【目標】他国に対し圧倒的優位にたったパクス=ブリタニカのもとでのイギリスでは，自由主義思想が主潮になったこと，また当時のヨーロッパでは国民国家形成の動きがさらなる広がりをみせたことを理解させる。またアメリカ合衆国でも国民国家としての体制が整えられていったことを理解させる。 【内容】イギリスの覇権について学ぶとともに，ウィーン体制が自由主義の広がりの中で崩壊していく過程と社会主義思想の形成を学ぶ。またロシア・イタリア・ドイツ・アメリカなどの国民国家の形成過程を学ぶ。	○	○	○	○	【a】イタリア・ドイツなどヨーロッパ各地で国民国家が形成されていった過程に関心がもてる。 【b】イタリアとドイツの統一を例に，国民国家の具体的な形成過程を考察し，表現できる。 【c】地図や年表などを用いて，国民国家の形成過程を指摘できる。 【d】欧米各国が国民国家としての体制を整えていく過程を理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	世界の一体化の進展とアジアの変容	【目標】ヨーロッパの世界進出の中，イスラーム世界は軍事的劣勢にたたされたこと，南アジア・東南アジアは植民地化され，東アジアも圧力を受けた状況を理解させる。しかし，その中で，きびしい国際環境に対応する動きが生まれたことや，日本の「近代化」が東アジアにおける国際関係に大きな変化をもたらしたことを理解させる。 【内容】欧米諸国によってアジアの植民地化が進んでいく状況を地域ごとに学ぶ。また植民地が政治的支配を受けただけでなく，経済的にも従属していった過程を学ぶとともに，あわせて植民地化に対するアジア各地域の改革への動きを学ぶ。	○	○	○	○	【a】アジア各地域の植民地化の過程や改革への模索に関心をもち，追究している。 【b】欧米諸国の進出に対するアジア各地域の動きを考察し，表現できている。 【c】地図などの各種資料を活用し，欧米諸国の進出にさらされたアジア各地域の状況を指摘できる。 【d】欧米諸国の進出に対するアジア各地域の外交・内政について理解するとともに，アジア諸国間の国際関係について理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

2学期	世界の一体化の完成とその影響	【目標】世界の一体化が完成していく状況を，産業・社会の変化とともに理解させ，ヨーロッパ各国の動向とアフリカの分割，アジアにおける体制の変革を総合的に考察させる。 【内容】第2次産業革命の中，帝国主義の時代が始まり，欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶとともに，アジアにおける対応のようすを各地域の特色をふまえながら学ぶ。	○	○	○	○	【a】帝国主義による世界の一体化が進む中，それにより圧迫されたアジア・アフリカの動きに関心をもち，追究している。 【b】植民地支配＝文明化と正当化するヨーロッパの思想を，批判的にとらえることができる。また欧米諸国のアジア進出が，各地域のナショナリズムを高揚させる契機になったことを考察し，表現できる。 【c】交通・通信の発達と世界の一体化との関連を，地図などの各種資料を用いて説明できる。 【d】欧米諸国が植民地を求めた理由として市場と原料供給地が必要であったこと，植民地化をまぬかれた国では欧米諸国の圧力に対する変革が模索されていたことについて理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
3学期	世界大戦の時代	【目標】総力戦として行われた二つの世界大戦の原因と影響を把握し，その惨禍を理解させる。また戦間期・戦中を通して，世界的に社会変革が起こったことを学び，20 世紀前半の変動を全体として考察させる。 【内容】「世界戦争」の時代においては，アジアのナショナリズムの高揚，社会主義国家の誕生，大衆社会の出現，ファシズムの台頭などが相互に関連した現象であったことを理解させ，考察させる。国際平和への努力もあわせて理解させ，考察させる。さらに戦後世界のわく組みが米ソを中心に形成されていくことを理解させ，考察させる。	○	○	○	○	【a】二つの世界大戦がこれまでとは違う総力戦であることを理解し，追究している。 【b】総力戦を支えた社会体制と，総力戦がもたらした影響について考察し，表現できる。 【c】写真や映像などの資料を活用して，総力戦の実態やそれがもたらした社会的影響を例示できる。 【d】第一次世界大戦と第二次世界大戦とで，「戦勝国」の，戦後処理を視野にいれた終戦までの動向に大きな相違があることを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

3学期	東西冷戦から多極的国際社会へ	【目標】世界の覇権を握ったアメリカ中心の戦後体制，それに対するソ連中心の社会主義陣営の形成，冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立，ベトナム戦争を契機としたアメリカの覇権の衰退，ソ連の低迷，アジア経済の勃興，イスラーム復興など，20 世紀の世界の画期について理解させ，考察させる。 【内容】アメリカの覇権，冷戦の展開，米ソ二極時代の終焉といった一連の流れとともに，地域紛争，西欧と日本の台頭に伴うアメリカの覇権の動揺，社会主義陣営の分裂と経済の低迷，アジア各地域の動向について学ぶ。	○	○	○	○	【a】戦後世界の画期となった動きや事件に興味・関心をもてる。 【b】戦後世界における資本主義陣営と社会主義陣営，第三勢力それぞれの動向を考察し，表現できる。 【c】戦後世界の画期となった動きや事件について，各種資料を用いて因果関係を指摘できる。 【d】戦後世界の画期となった動きや事件について理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査
	相互依存を深める世界	【目標】冷戦後の世界について政治・経済・文化・宗教などの全体像を学習し，20 世紀末から 21 世紀にかけて新たな世界秩序が模索されていることを理解させる。またグローバル化とその問題点を考察させる。 【内容】冷戦の終結がソ連と東欧社会主義圏を解体させたこと，地域統合が進展するとともに，BRICs のような新興国の伸長がみられることを理解させる。また，20 世紀末から 21 世紀にかけてグローバル化が進展する中で，新たな世界秩序が模索されていることにふれ，これからの世界について展望させる。	○	○	○	○	【a】地域紛争や新しい形の紛争（テロ），地域統合の進展，新興国の勃興，地球環境問題などに関心をもち，追究している。 【b】地域紛争，地域統合の進展，新興国の動向，地球環境問題などについて考察し，表現できる。 【c】新聞の国際面などに報道されているできごとの背景を，教科書の説明を参考にしつつ指摘できる。 【d】冷戦後も世界には解決すべきさまざまな問題がある一方で，ヨーロッパやアジアなどでは新たな地域協力の形が模索されていることを理解している。	学習状況 ワークシート レポート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）

の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。